

兵庫県の鳥の声

梶本恭子

⑬ メボソムシクイと オオムシクイ

兵庫県ではメボソムシクイもオオムシクイもそのほとんどが通過です。

現在これら2種は亜種の関係にあるとされ、見た目では全く区別が付きません。

しかし鳴き声が全く違うため、声を聞けば簡単に識別できます。

2種の声紋と識別ポイントを下記に示します。

1. メボソムシクイ

- ・ 囀りの合間に地鳴きします。
地鳴きは「ジュ」とか「ジュジュ」と聞こえる、低くて弱々しい小さい

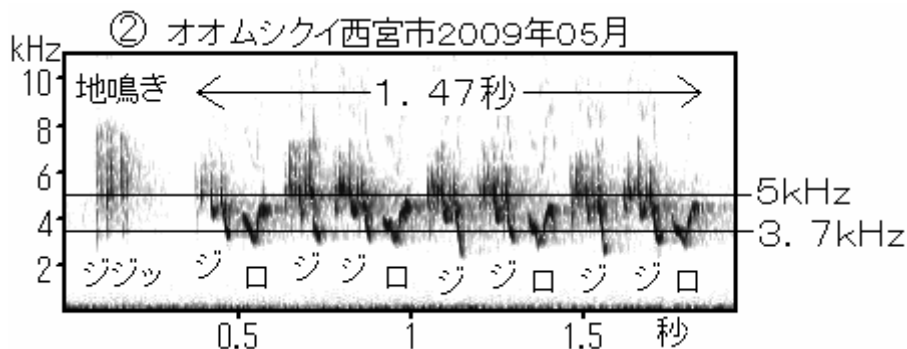
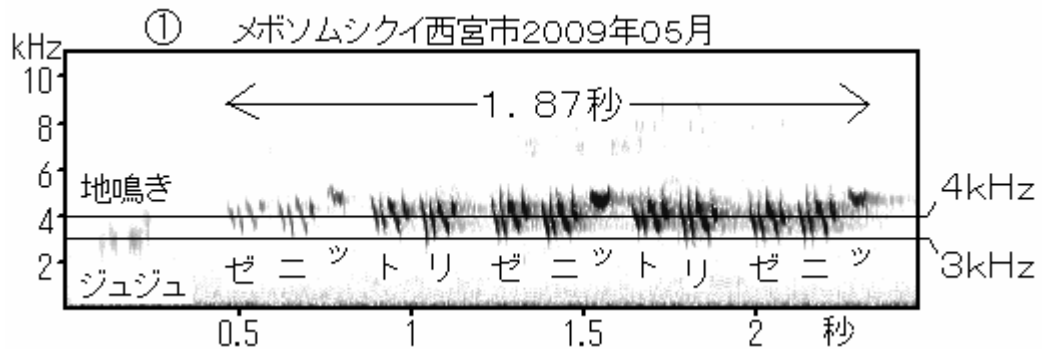
声です。下のグラフでも声紋は薄くしか出ていません。

ですから、鳥からちょっと離れると聞こえにくいです。

- ・ 囀りは「ゼニトリ」と聞きなしされます。ゆっくりしたテンポで、「ゼニトリ」の4音を一つ一つ丁寧にハッキリと鳴きます。

そのため、「4拍子」と言われます。下のグラフの鳥は、途中にもう一音入っているので、「ゼニツトリ」と聞こえます。

- ・ 囀りの声の高さは大体4 kHz前後で、わりと低い目です。



2. オオムシクイ

- ・ 囀りの合間の地鳴きは「ジジッ」と非常に高く大きく鋭い声です。この声は離れていてもよく聞こえるので、この声で鳥の存在に気づくほどです。
- ・ 囀りの聞きなしは特にありませんが、一般に尻下がりの「ジジロ」とか「チチロ」と表されます。そのため、メボソムシクイの「4拍子」に対して「3拍子」と言われます。メボソムシクイより早口で囀るので、声紋を比較していただくと、横軸(時間)方向に非常に詰まっています。また声紋の形がメボソムシクイと全く違っていますから、声を聞いた時の感触(声の質)が違います。
- ・ 声の高さはメボソムシクイよりずっと高いです。

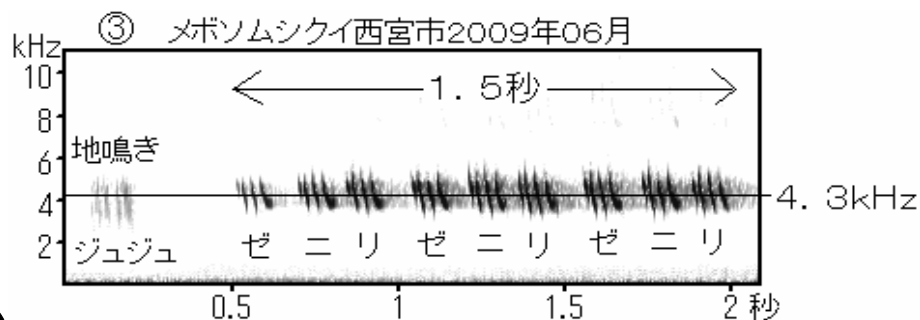
ところで今年の6月の中旬のこと、私は「ジジロ ジジロ」と3拍子で囀るムシクイに出会いました。「ずいぶん時期が遅いオオムシクイだなあ、今からサハリンまで行っていたのでは繁殖に間に合わないよ」と思いながら聞いていたのですが、「でもなんか声が

違う。地鳴きの声も小さいし、ホントにオオムシクイかな?」。しかし囀りはあくまで3拍子。

そこで、ムシクイ類に詳しい齋藤武馬さんにこの声を聞いていただきました。齋藤さんからの私信によれば、「この個体はオオムシクイではなく、本州の亜種メボソムシクイの囀りに間違いありません。少し声は濁っていますが、亜種メボソムシクイと地鳴きは同じですし、オオムシクイと比べて、囀りのテンポが遅く、周波数も全体的に低いですね。すこし舌足らずで「ゼニトリ」とちゃんと発音はしていません。私はこの個体と似たような囀りを奈良県の大台ヶ原で聞いたことがあります。亜種メボソムシクイの中でも地域によって囀りには変異があるようですし、同地域でも個体差もかなりあるようです。」とのことでした。

このメボソムシクイの声紋をグラフ③に示しています。齋藤さんがおっしゃるとおり、声紋の特徴はメボソムシクイと一致しています。

「3拍子のムシクイは必ずしもオオムシクイとは限らない」と言う教訓でした。



鳥信係から

公には整理されていないようですが、オオムシクイはメボソムシクイの1亜種として使用され、私的な研究報告がインターネット等に掲載されています。